

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2021年7月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2021年7月9日～7月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 128社
- 回収率 64.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の7月の状況を見ると業況DIは、前月より8.9ポイント改善の▲28.1となった。

2017年9月以来47ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲27.3、当月と比べ0.8ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2021年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 2021年8月～ 2021年10月
業況	▲47.6	▲28.8	▲20.5	▲27.7	▲37.0	▲28.1	▲27.3
売上	▲48.4	▲26.4	▲4.1	▲10.8	▲22.0	▲11.0	▲13.3
採算	▲43.5	▲31.2	▲17.2	▲22.3	▲41.0	▲29.6	▲32.0
仕入単価	▲25.0	▲34.4	▲36.9	▲36.2	▲44.9	▲43.7	▲42.9
販売単価	▲17.0	▲6.4	0.8	0.0	6.3	9.3	3.9
従業員	14.5	12.0	18.0	19.2	16.5	18.0	25.0
資金繰り	▲23.4	▲20.0	▲10.7	▲15.4	▲13.4	▲11.7	▲13.3

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2021年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 2021年8月～ 2021年10月
建設	▲16.7	▲23.4	▲17.3	▲28.5	▲32.3	▲20.0	▲30.0
製造	▲50.0	▲32.1	▲24.1	▲13.4	▲25.0	▲30.0	▲30.0
卸売	▲39.3	▲17.9	▲15.4	▲27.6	▲29.6	▲14.3	▲10.7
小売	▲52.9	▲50.0	▲20.0	▲35.0	▲61.1	▲50.0	▲38.9
サービス	▲80.0	▲30.5	▲26.1	▲39.1	▲47.9	▲36.4	▲31.9

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・工事（公共工事）発注件数は昨年度より増加傾向だが、下請業者を含め人員不足であるため工事受注量を制限している状況。早急な従業員確保が必要。新型コロナウイルスによる影響は特に感じていない。（総合工事） ・一般戸建ての工事が昨年と同じ水準に回復した。この先、ウッドショックの影響がどの程度出るかが心配。全体の業績は、一般戸建ての工事と定例的な工事で昨年並みの工事量は続きそう。人材については充足しているが、将来を見据えた若い人材の確保を積極的に進めたいと考え採用活動をしている。（設備その他） ・モデルハウスの来場が非常に少ない。建設作業員の募集をしているがまったく来ない。（建築）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・7月は例年売上が伸びない月だが今年は今まで以上に厳しい状況。これから加工作業で多忙になるので、パートの人員集めに少し不安はある。（食料品） ・ウッドショックによる原材料の価格アップと原材料そのものの入手が難しくなっているため、生産額そして利益率にネガティブな影響を及ぼしている。今後最低時給も10月に改定があるようなので販売単価を引き上げていかなければ利益がどんどん圧迫されてしまう状況。（家具・木材） ・例年8月お盆明けまで受注が一服する。昨年から続く基礎資材の値上がりの天井が見通せず、かつ一部製品の供給が不安定でもあり、見積りも困難な物件もある。（金属窯業等）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生用品の特需は落ち着きつつあるが、猛暑の影響で空調服や冷感商品の需要が高まり、売上を押し上げた。（繊維） ・観光地、飲食、業務筋への販売不振、まだまだ回復の兆しが見えない。（飲食料品） ・緊急事態宣言による交通（特に空輸便の減少、機材の小型化）の要、羽田空港の問題。オリパラによる影響、無観客とはいえ地方のホテル等は婚礼を含めた宴席が制限される。（その他） ・ウッドショックによる商品不足の影響が大きく仕入単価上昇に販売単価が追いついていない状況となっている。（機械鋼材）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月新型コロナウイルスによる影響によって売上減少が続いており、大変苦しい状況に追い込まれている。今後どのような方向性で店舗運営を進めて良いのかまったく先が見えない。（衣服見回品） ・6～7月とレンタカー売上や週末の来店台数が戻ってきている。一昨年レベルまでは届いていないが、7月12日のまん延防止解除も含め、今後の売上増に期待したい。しかし、デルタ株の心配はあるので公私共に札幌往来は自粛予定。（その他） ・新型コロナの影響で観光客の来店が少なく、本来であれば稼ぎ時である夏季シーズンだがかなり苦戦している。それでも前年度は持続化給付金等、政府の支援策によりなんとか乗り切れたが、今年はそういった支援策も適用にならず財務的にも厳しくなる。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・前年より少々お客様が戻ってきたが、札幌方面の観光客が減少し、売上25%減、経費を節約しなんとか経営している。年内はダメかもしれない。外注を減らしたり、他の仕事をしながら頑張っている（農家の雑草取り、他のアルバイト）。（理美容・クリーニング） ・昨年同月より多少増加は見られたが、コロナ前の一昨年に比べれば大幅減少には変わらない。多少の前年プラスでもあまり変わらない。（ホテル・旅館） ・客先の需要が徐々に増加。そのため、人員の補充を進めているが採用が厳しい状況。（飲食） ・緊急事態宣言が明けても外出に出る人は少ない。4～5名以上の小団体客もほとんど来店せず売上は低調。このまま経営を続けられるか不安。（飲食） ・まん延防止等重点措置終了後、高齢者へのワクチン接種の進展等により人の移動が活発になると想定されるが、影響の無かった一昨年までの回復はほど遠い。一方で燃料価格の上昇が経営に悪影響を与えており、この傾向が続く場合は、昨年度と同様相当厳しい状況が想定される。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI18.9 ポイント改善、採算 DI15.2 ポイント改善、仕入単価 DI8.0 ポイント改善、販売単価 DI6.5 ポイント改善、資金 DI6.5 ポイント悪化、従業員 DI1.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 12.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、設備・その他横ばい、総合工事 15 ポイント、建築業 26 ポイント改善となった。ウッドショックの影響が顕在化してきており、木材の調達に困難が生じている。又、建設資材の高騰もみられ、採算は悪化傾向となる予想との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI6.8 ポイント悪化、採算 DI1.1 ポイント悪化、仕入単価 DI10.3 ポイント悪化、販売単価 DI2.6 ポイント改善、資金 DI7.5 ポイント改善、従業員 DI 横ばい。総じて業況 DI は 5.0 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 14 ポイント、金属窯業他 10 ポイント改善、印刷・出版 30 ポイント、家具・木材 24 ポイント悪化となった。3ヶ月見通し予算ベース。親会社の一工場 8 月で紙生産停止との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI11.2 ポイント改善、採算 DI15.3 ポイント改善、仕入単価 DI1.6 ポイント改善、販売単価 DI4.5 ポイント悪化、資金 DI0.2 ポイント改善、従業員 DI0.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 15.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、繊維・衣服等 20 ポイント悪化、その他横ばい、食料品 43 ポイント、機械鋼材 33 ポイント改善となった。グループ会社合併による売上増はあるものの採算等は例年通りとなる見込みとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI11.1 ポイント改善、採算 DI11.1 ポイント改善、仕入単価 DI5.6 ポイント悪化、販売単価 DI 横ばい、資金 DI 横ばい、従業員 DI11.1 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 11.1 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品、その他、自動車横ばい、食料品 50 ポイント改善となった。世界的な半導体不足の影響で一部商品の出荷停止状況が出ているとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI21.1 ポイント改善、採算 DI16.1 ポイント改善、仕入単価 DI11.8 ポイント改善、販売単価 DI8.8 ポイント改善、資金 DI7.1 ポイント改善、従業員 DI4.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 11.5 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、飲食 10 ポイント、整備業 25 ポイント悪化、理美容・クリーニング、ホテル・旅館横ばい、その他 30 ポイント、運送 83 ポイント改善となった。新型コロナウイルス対策に伴い、関係機関がテレワークを実施している為、打合せ等が進まず工程に支障が生じているとの声も寄せられている。</p>